

2013（平成 25）年度未来医療研究人材養成拠点形成事業

テーマB：リサーチマインドを持った総合診療医の養成

卒前から生涯学習に亘る総合診療能力開発

—地域における臨床研究の推進を目指して—

事業期間：平成 25 年度～平成 29 年度

〈事業の概要〉

地域と大学が強く連携し、卒前から卒後・生涯に亘る時間軸の中で、「幅広い多様性」という総合診療の専門性を基礎に、地域医療で生じた問題を自ら解決するための臨床研究を発案・遂行し、エビデンスを発信できる医師を養成するプログラムを開発する。本学は既に卒前教育において地域での様々な医療ニーズを体験する実習を低学年から体系的に導入し、さらに社会人教育として地域医療に従事する医師を対象に臨床研究者育成プログラムも実施している。そこで本事業では、卒前、臨床研修での「地域医療体験」の拡充、専門修得コース（レジデント）における教育病院・施設群と連携した「総合診療コース」の新設、大学院博士課程での授業細目「地域医療プライマリケア医学」の確立、大学院と専門修得コース（レジデント）のコンバインドプログラムを構築し、プライマリケア現場で活躍する clinician researcher を育成する全学的なシステムを開発・整備し、地域医療のための人材養成拠点となる。

卒前から生涯学習に亘る総合診療能力開発—地域における臨床研究の推進を目指して— 東京慈恵会医科大学

課題

超高齢化社会において、地域に必要な総合診療能力を持つとともにプライマリケア現場での臨床研究能力を合わせ持つ人材養成が急務

対応

地域と大学が強く連携し、卒前教育から生涯学習に亘るシステムにより、「幅広い多様性」という総合診療の専門性を基礎に、地域医療問題を解決するための臨床研究能力を備える医師養成プログラムを実施

教育プログラム

医学部

- 1年 福祉体験実習
重症心身障害児療養体験実習
- 2年 地域子育て支援体験実習
- 3年 在宅ケア実習
高齢者医療体験実習
- 4年 病院業務実習
- 5年 家庭医実習(臨床実習)
(1～6年プライマリケア)
- 6年 選択学外臨床実習と
産業医実習)

臨床研修

- 1年
- 2年 へき地医療プログラム

専門修得コース(レジデント)

- 1年 総合診療コース
 - 2年
 - 3年
- 総合診療・家庭医療

地域と連携した本事業の特徴

1. 卒前教育での地域医療ニーズ体験実習の拡充
2. 附属病院臨床研修での「へき地プログラム」の必修化
3. 地域研修を主とした専門修得コース(レジデント)での「総合診療コース」の新設
4. 大学院での授業細目「地域医療プライマリケア医学」の新設—レジデントとのコンバインドコースも設置—
5. 社会人・生涯教育によつての総合診療医養成
—総合診療・家庭医療ブラッシュアッププログラムの開発と
医師復職支援プログラムと連携—
6. 英国キングス大学の総合診療医養成プログラムとの連携
7. PDCAサイクルによるプログラム改善

アウトプット

1. 卒前教育・臨床研修で幅広い地域医療ニーズを体験する。⇒研修医は研修終了時に、自らが求める医師の役割を考へて自分の専門修得コースを選択する。
2. 大学附属病院がコーディネートする総合診療医のための専門修得コースを構築する。⇒総合診療を一つの専門領域としてその教育・研修体制を大学・附属病院が責任を持って改善していく。
3. 大学院授業細目「地域医療プライマリケア医学」を開発する。⇒プライマリケア現場での研究課題の発見、問題解決に大学が関与することで、プライマリケア医学の向上を図る。
4. 大学・附属病院と地域とが医師養成に協働する。⇒地域の教育力を大学に、そして大学の知を地域に還元することで、地域で行われる医療の質の向上に大学が支援する。
5. 医師のキャリアサポートを支援する。⇒臓器専門医を総合診療医へ、復職希望医師に総合診療能力を育てる環境を提供することで、生涯にわたつて地域で医療を行える医師を増やす。

学内医師 学外地域医師

大学院博士課程

- 1年 レジデントとコンバインドプログラム
 - 2年
 - 3年 地域医療プライマリケア医学
 - 4年
- EBMと臨床研究

■:必修科目・研修・博士課程
■:インテンシブコース

総合診療・家庭医療 復職支援